

第4学年 音楽科学習指導案

東京都公立小学校

1 題材名 「日本の音楽でつながろう」

2 題材の目標

- (1) 曲想と日本の伝統的な楽器の音色、旋律や音階との関わりについて気付くとともに、音階の音の響きやそれらの組合せ、旋律のつなげ方の特徴についてそれらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付き、発想を生かした表現並びに思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽づくりの技能を身に付ける。
- (2) 日本の伝統的な楽器の音色、リズム、旋律や音階などを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、それらの働きが生み出す曲や演奏のよさや面白さなどを見いだしながら曲全体を味わって聴くとともに、旋律をつくったりつなげたりする中で、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 日本の伝統的な楽器や音階に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組む。

3 学習指導要領との関連

[A表現] (3) 音楽づくり：ア(ア) (イ), イ(ア) (イ), ウ(ア) (イ)

[B鑑賞] ア, イ

○児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 音色, リズム, 旋律, 音階

イ 反復, 変化

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 曲想と日本の伝統的な楽器の音色、リズム、旋律や音階との関わりについて気付いている。(鑑) ② 音階の響きや構成音、それらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて気付き、8拍の旋律をつくることを条件に、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。(づ) ③ 旋律のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付き、思いや意図にあった表現にするために必要な、反復や変化を用いて音楽をつくる技能を身に付けている。(づ)	① 日本の伝統的な楽器の音色、リズムや旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。 ② 日本の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に音を組み合わせることで旋律をつくり、音楽づくりの発想を得ている。 ③ 日本の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律のつなげ方を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	① 日本の伝統的な楽器や音階に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの活動に取り組もうとしている。

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、構成を「鑑賞—音楽づくり」と設定した。始めに日本の伝統的な楽器の音色や音階の響きに親しみ、そのよさや美しさを感じ取る。次の音楽づくりでは、鑑賞の学習を通して気に入った曲の音階を選べるようにし、主体的に旋律づくりに取り組めるようにした。鑑賞の学習では、『さくらさくら』と『谷茶前』を楽器の音色やリズムの特徴などを比較して聴いたり、感じ取ったこと、曲や演奏のよさなどについて伝え合ったりすることで、我が国や郷土に伝わる音楽のよさなどを味わえるようにする。音楽づくりでは、選んだ音階で音の動きを試しながら即興的に旋律をつくったり自分の旋律を決めたりする。その上で、自分の旋律を友達とつなげ、まとまりのある音楽をつくり、その過程で日本の伝統的な音階の響きにより親しめるようにしたい。

日本の伝統的な楽器の音色や演奏に価値を見いだして捉えたり、旋律づくりにおいて調整や改善を繰り返したりすることで、我が国の伝統的な音楽に興味・関心が深まるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

1学期の『さくらさくら』の学習では、歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌ったり、旋律のリズムや反復に気を付けてミニキーボードで演奏したりした。また、旋律に「レ」と「ソ」が使用されていないことに気づき、我が国の伝統的な音階のもつ響きについても考えることができた。旋律づくりの学習は、リコーダーで会話をしたり、3つの音（ラドレ）の音で2小節の旋律づくりをしたりしてきた。これらの学習は、使用音数が少なく、音を選びやすいため、どの児童も無理なく即興的に音を選んで表現することができた。曲を構成する学習は、手作り楽器でつなぐ（A・B・C・D）、一人を中心にする（A・B・A・C・A・D）、重ねるなどを使ってグループの音楽をつくった。しかし、どのような順番でつなげると思いや意図にあった音楽になるのか、一人を中心にする音楽がどのようによくなるのかなどについて実感を伴った学びに至っていないところが指導上の課題である。

本題材では、日本の伝統的な楽器の音色に親しんだり、音階の響きを感じ取りながら5つの音を組み合わせることで即興的に旋律をつくったりグループでまとまりのある音楽に構成したりすることを通して、日本の音楽のよさや友達と協働して音楽をつくる楽しさなどが味わえるようにしたいと考えている。

(3) 教材観

【鑑賞曲】

○こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』より 藤井凡大 作曲

（教育芸術社 令和2年度～鑑賞用CD 小学生の音楽4）

合わせ爪や押し手、割り爪、後押しなどといった古典的な奏法のほか、ピチカート、グリッサンドなどの現代奏法も用いており、箏の音色や音楽の特徴を感じ取りやすい作品である。鑑賞用CDには主題、第1変奏、第4変奏、第5変奏、第6変奏、後奏が収録されているが、ここでは、音色と音階の特徴に親しむために主題のみを鑑賞する。三学期に教科書P. 58～59「ことをひいてみよう」の学習において全曲鑑賞する。

○『谷茶前』 沖縄民謡

（教育芸術社 令和2年度～鑑賞用CD 小学生の音楽5）

三線は、沖縄県および鹿児島県奄美地方に伝わる音楽で演奏される楽器。チーガ（胴）にはニシキヘビの皮が張られており、右手の人差し指にはめたチミ（爪）でチル（弦）を弾く。『谷茶前』は跳躍的なリズムで歌われる。男性は櫛、女性はザルを持って軽快に踊る。現在は女性二人で踊られ、一方が男役を踊ることが多い。歌詞は恩納村（本部町という説もある）の谷茶の浜の漁村風景を歌ったものである。教科書では『ていんさぐぬ花』を扱っているが、旋律づくりで特徴のある跳躍的なリズムを使用するため『谷茶前』を鑑賞する。

【使用楽器】

ミニキーボード カシオSA-46 32鍵（一人一台使用）

電子鍵盤楽器の中で比較的価格が安く、軽量、電池駆動。手元を見て歌いながら旋律をつくることのできるため、思考・判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実につながる。

音階シート（都節音階・沖縄音階）ゼンオン五音音階シート

ミニキーボードの鍵盤に音階シートを置いて使用する。音階の音が一目で分かるため、どの音を選べばよいか迷ったり、違う音を出してしまったりする心配がなく旋律づくりができる。また、違う音階のシートに置き換えることで、各音階で使われる音の違いも可視化される。

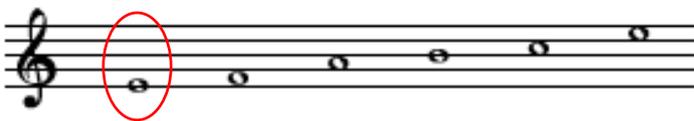
【五音音階による旋律づくり】

①音階を選び、音の動きを意識して一人2小節（4分の4拍子）8拍の旋律をつくる。

②3人のグループになり、まとまりを感じられるかを考えながらそれぞれがつくった旋律をつなげて、グループの音楽をつくる。

<使用する音階>

「都節音階」

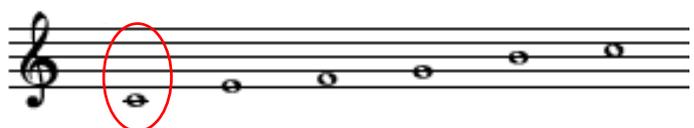


核音：ミ、シ

始めの音：ミ、ラ、シ

終始音：ミ、シ

「沖縄音階」



核音：ド、ファ

始めの音：ド、ファ

終始音：ド

<第二次のねらい>日本の音階を使い、音の動きを考えながら旋律をつくる。

- 2 ○都節音階と沖縄音階の違いに気付く。
- ・『さくらさくら』を階名で歌い、使われている音を確認する。
 - ・音階シートを使いミニキーボードで演奏する。
 - ・ミニキーボードの音色から都節音階の演奏にふさわしい音色を選ぶ。
- ・『かえるのがっしょう』を都節音階で聴き比べ、違いについて気付いたことや感じ取ったことを伝え合う。
- ・沖縄音階で使われている音を確認、音色を選ぶ。
 - ・沖縄音階の『かえるのがっしょう』を聴き比べたり演奏したりし、違いについて気付いたことや感じ取ったことを伝え合う。
- 音の動きを生かして、即興的に表現する。
- ・都節音階で教師の示すいくつかの旋律を模倣し、音の動きの特徴を見付ける。
- | | | | |
|---|---|----|---|
| 」 | 」 | 」 | 々 |
| ミ | ミ | ファ | 々 |
| ラ | シ | ド | 々 |
| ミ | ド | シ | 々 |
- ・『さくらさくら』を想起し、どのような音の動きがあるかを確認する。
 - ・音の動きを考え、即興的に4拍の旋律をつくり、ペアでつなげる。

- ◇音階シートを使うことで、簡単に演奏できるようにするとともに、使われていない音にも気付けるようにする。
- ◇『さくらさくら』のリズムは4分音符を多用していることも確認し、曲想との関わりや旋律づくりで使用するリズムにつなげるようにする。
- ◇『かえるのがっしょう』をハ長調（原曲）と都節音階で聴き比べることで、鑑賞曲で感じたことは、箏の音色の他に音階がもつ雰囲気にも関係があることに気付けるようにする。
- ◇使われている音の違いが分かるように沖縄音階シートを使用する。
- ◇同じ曲の音階を変えて聴き比べることで、音階による響きの違いに気付くようにする。
- ◇『谷茶前』で多用されているタツカのリズムでも演奏し、特徴的なリズムにも気付くようにする。
- ◇始めの音を伝え、階名唱をしながら範奏する。
- ◇即興的に試した後に、どのような音の動きがあるかを確認して板書する。
- ◇階名を声に出して歌いながらつくるよう言葉掛けをする。

② 発言・演奏聴取・記述

・教師の示すいくつかの8拍の旋律を模倣する。

♪	♪	♪	♪		♪	♪	♪	♪
ミ	ファ	ミ	ファ		ミ	ド	シ	♪
ラ	シ	ド	ミ		ファ	ラ	シ	♪
シ	ド	シ	ラ		ファ	ミ	ミ	♪

・音の動きを考え、即興的に8拍の旋律をつくり、ペアでつなげる。

・沖縄音階で教師の示すいくつかの旋律を模倣する。

♪	♪	♪	♪		♪	♪	♪	♪
ド	ミ	ド	ミ		ファ	ソ	シ	ド
ファ	ソ	ファ	ミ		シ	ド	ミ	ファ
ド	ミ	ファ	ソ		シ	ド	シ	ド

・音の動きを考え、即興的に8拍の旋律をつくり、ペアでつなげる。

- ・気に入った音階を選ぶ。
- ・本時の学習を振り返る。

◇始めの音を伝え、階名唱をしながら範奏する。

◇少しずつ使用音を増やし、発想を得られるようにする。

◇階名を声に出して歌いながらつくるよう言葉掛けをする。

◇跳躍音が続くなどの旋律をつくっている場合は、『さくらさくら』の音の動きを確認したり演奏したりして隣の音に動くことで音階の雰囲気が出ることに気付くようにする。

◇次時までに選んだ音階から3人のグループを組んでおく。

3 ○選んだ音階で条件に基づき8拍の旋律をつくる。

- ・前時の旋律づくりのルールを思い出し、即興的に旋律をつくって表現する。
- ・即興的につくった旋律の終わり方について考える。

条件：隣の音へ動くようにする

都節音階	始めの音：ミ、ラ、シ
	終わりの音：ミ、シ
沖縄音階	始めの音：ド、ファ
	終わりの音：ド

・選んだ音階で条件に基づき8拍の旋律をつくる。

- ・3人のグループでアドバイスし合う。
- ・つくった旋律をタブレット端末に録音する。
- ・つくった旋律を音階ごとにつなげて表現する。
- ・本時の学習を振り返る

◇つくった旋律を聴き比べたり『さくらさくら』や『谷茶前』の旋律からヒントを得たりして終わりの音に気付くようにし、条件を加える。

◇録音はグループで協力して行うように言葉掛けをする。

◇伴奏を加え、拍にのってつなげるようにする。

② 行動観察・演奏聴取・記述

<p>4</p> <p>本時</p>	<p>○3人の旋律をつなげ、グループの音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくった旋律をつなげて表現する。 ・3人でそれぞれの旋律をつなげてまとまりのある音楽をつくるには、どのようなつなげ方があるかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ A-B-C (-D) -A+ ・ A-B-C (-D) -B-C (-D) -A+ ・ A-B-A-C-A (-D) -A+ ・ A-A-B-C (-D) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとまりのある音楽をつくる。 ・音の動きを考えて旋律をつなぐにはどのようにしたらよいかを考える。 <p>○他のグループのつくった音楽を聴いて、音のつなげ方のよさを認め合い、自分達の音楽づくりに生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのつくった音楽を聴き合う。 ・聴き合う活動を生かし、自分たちの音楽づくりを工夫する。 ・いくつかのグループが発表する。 <p>・本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇『いろいろな木の実』や『さくらさくら』の曲の構成を思い出すように言葉掛けをする。</p> <p>◇いくつかのグループの旋律で試し、音の動きを考えて旋律をつなぐことを確かめる。</p> <p>◇他のグループの音楽を聴き合い、自分たちの工夫に生かす場を設定する。</p> <p>◇どのようにつなげてつくっていたのかを伝え合うようにし、グループの工夫を共有する。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">③ 行動観察・演奏聴取・記述</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>
<p>5</p>	<p>○グループの音楽を発表し、互いの表現のよさを聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、グループの音楽をつくり上げる。 ・自分たちが工夫した点を述べて、グループの音楽を発表し、気付いたことを発言する。 <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことなどをワークシートに記入し、友達と伝え合う。 	<p>◇旋律のつなげ方や音の動きなどの工夫がどのような音楽になっているかについて考えられるように板書し、示す。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">③ 演奏聴取・記述</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">① 行動観察・記述</p>

7 本時の展開

4 時間目

(1) 本時のねらい

グループで旋律の音の動きに気を付けながらつなげ方を考え、まとまりのある音楽をつくる。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準〈評価方法〉
<p>○ 3人の旋律をつなげ、グループの音楽をつくる。 ・ 自分のつくった旋律をつなげて表現する。</p>	
<p>グループでまとまりのある音楽をつくろう</p>	
<p>発問：3人でまとまりのある音楽にするには、どのようにつなげたらよいか。</p>	
<p>・ 3人でそれぞれの旋律をつなげてまとまりのある音楽をつくるには、どのようなつなげ方があるのかを考える。</p> <div data-bbox="204 880 662 1010" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ A-B-C (-D) -A+ ・ A-B-C (-D) -B-C (-D) -A+ ・ A-B-A-C-A (-D) -A+ ・ A-A-B-C (-D) </div> <p>・ グループでまとまりのある音楽をつくる。 ・ 音の動きを考えて旋律をつなぐにはどのようにしたらよいかを考える。</p> <p>○ 他のグループのつくった音楽を聴いて、音のつなげ方のよさを認め合い、自分たちの音楽づくりに生かす。</p> <p>・ 他のグループのつくった音楽を聴き合う。 ・ 聴き合う活動を生かし、自分たちの音楽づくりを工夫する。 ・ いくつかのグループが発表する。</p> <p>・ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇ 『いろんな木の実』や『さくらさくら』の曲の構成を思い出すように言葉掛けをする。</p> <p>◇ いくつかのグループの旋律で試し、音の動きを考えて旋律をつなぐことを確かめる。</p> <p>◇ 他のグループの音楽を聴き合い、自分たちの工夫に生かす場を設定する。</p> <p>◇ どのようにつなげてつくっていたのかを伝え合うようにし、グループの工夫を共有する。</p>
<p>◆ 日本の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、旋律のつなげ方を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思・判・表③ 〈行動観察・演奏聴取・記述〉</p> <p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友達の意見をまとめ、明確な思いや意図をもって旋律をつくっている。 ・ まとまりのある旋律になるように、旋律のつなげ方や音の動きを試行錯誤し、それが旋律づくりに反映されている。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したいくつかの音のつながりを示し、気に入ったものを選べるようにする。 ・ 自分の旋律を友達に演奏してもらい、旋律のつながりを聴いて考えられるようにする。 	